BESSHI 住友別子病院広報誌

# SMILE

2026.01
Vol.215

## 特集：新年のごあいさつ

# 新年のご挨拶

理事長・院長・医療支援部長　鈴木　誠祐（すずき　せいゆう）

あけましておめでとうございます。旧年中は医療法人住友別子病院に対して、格別のご厚誼を賜り、誠にありがとうございました。本年もよろしくお願い申し上げます。

新型コロナウィルス感染症は扱いが5類に引き下げられましたが、あいかわらず散発的に流行し、コロナ以外のインフルエンザや百日咳などの感染症も流行しています。また、ニュースなどでもご存じのように病院経営は人件費や医療材料費の高騰などにより破綻寸前となり、地域の医療はますます厳しい状況になってきています。

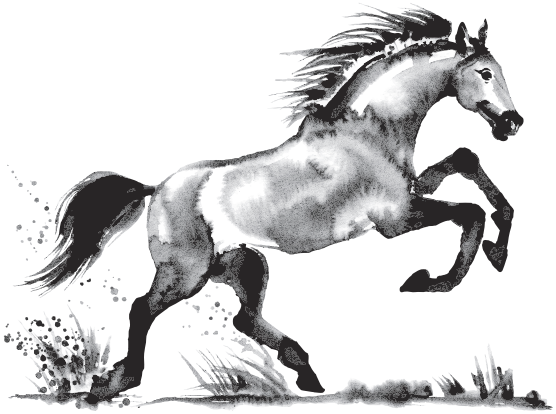
さて、当院では新病院開設以来、外来および入院患者さんともに増えており、内視鏡手術支援機器（いわゆるダビンチ）による手術をはじめとして手術件数も増加しています。救急医療についても医師の働き方改革の問題はありますが、内科系・外科系の医師が同時に当直する体制をなんとか維持して救急搬送件数は年間約3,000件に達しています。このように業績が伸びていることは大変ありがたいことですが、医師が充足されていない中、医師をはじめとする医療スタッフへの負荷が重くのしかかり、大きな課題となっています。

臨床研修制度が始まって以来、医師の地域偏在が顕著で地方の大学では医師が激減しました。このために新居浜地域では大学から医療機関への医師派遣が滞ってしまい、医療崩壊の危機が続いています。住友別子病院でも現場の医師不足により、診療休止や診療制限を余儀なくされる診療科があいついでいます。呼吸器外科・小児科・精神科・産科は医師不在で休止となってしまいました。また、麻酔科・呼吸器内科・乳腺内分泌外科・婦人科・形成外科・血液内科・神経内科は常勤医が不在となり、非常勤体制で診療が大幅に制限されています。医師確保に向けて大学に医師派遣のお願いをし、医師の募集もしていますが、厳しい状況が続いていました。

このような状況を打破するために当院は2016年に新病院を建設し、その後もダビンチを導入したり、DSA棟を新築するなど多大な設備投資を行ってまいりました。おかげで、若い医師が当院にたくさん来てくれるようになり、喜ばしい成果を上げています。しかし、その一方で医師不足の状況はさらに深刻さを増しています。

そこで、医師を確保して診療科を維持するために新たな取り組みとして愛媛大学と協力して、昨年7月より呼吸器内科ならびに脳神経外科の寄附講座を開設しました（寄附講座は資金を提供して大学内に研究講座を開設するとともにその講座の医師が病院でサテライト診療を行うことで診療を支えるというものです。）。

呼吸器内科の医師引き上げにより、当院での肺がんや重症肺炎などの診療が困難になってご迷惑をおかけしていましたが、これをきっかけに本年4月より常勤医が派遣されることになり、呼吸器内科の診療を再開することができるようになりました。また、当院での脳神経外科診療ができなくなるおそれがあり当地域の救急をはじめとする脳神経外科診療



に多大な支障をきたすことが危惧されていました。そこで寄附講座を開設することで近隣医療機関の脳神経外科と協力しながら、当地域の脳神経外科診療を支えていくことにいたしました。

このように当地域の医師不足・医師の高齢化はまだまだ続いており、加えて看護師をはじめとする医療スタッフの不足も大きな問題になっています。当院は今後も大学と協力しながら医師を確保する手段を講じたり、看護師などの医療スタッフを確保して当地域の医療を支えていきたいと思っています。しかし、一医療機関のみの取り組みでは対応の難しいことも多く、医療機関がお互いに協力しあいながら地域医療を支えていくとともに、限られた医療資源を地域の皆様が大切に守っていかなければ地域医療は崩壊します。以下のことは地域医療を守るために不可欠と考えられますので、ご理解、ご協力くださいますようお願いします。

- **お住まいの地域にかかりつけ医をもつ。**
  気になることがあれば、まず、かかりつけ医に相談して、二次・三次医療を担う急性期病院受診の際には紹介状を持参する。
- **コンビニ受診**（自分の都合で診療時間外に受診すること）**を控える。**
- **ドクターショッピング**（症状が改善しないと感じる場合や症状が改善しても心配であるために受診する病院を次々に変えること）**をしない。**
- **診療機能に応じた医療連携に協力する。**
  例えば急性期の医療を終えれば、回復期医療・リハビリのできる施設に転院し、リハビリが終われば療養型の病院・施設・在宅医療に移行する。
- **一次・二次・三次救急の機能区分に沿った救急体制を理解し、協力する。**

医療法人住友別子病院はがん診療・急性期医療・リハビリテーションを3つの柱として質の高い医療を提供することで、当地域のリーディングホスピタルとして新居浜・西条医療圏を含む東予地域の医療に貢献していく所存です。

また、併設する介護老人保健施設「王子苑」と協力し、高齢者が安心して地域で生活できるよう支援していきたいと考えていますので、本年もご協力・ご支援のほどよろしくお願い申し上げます。

# 謹んで初春の お慶びを申し上げます。

看護部長　守屋（もりや）　昭子（あきこ）

令和8年の干支である「馬」の年は「前へ進む象徴－発展・成長・努力の実り」の年になるともいわれます。私たち、看護部においても「私たちは患者さんの治癒力を最大限に引き出す看護を提供します」の看護部理念のもと、更なる飛躍の年にしたいと願っております。

看護部理念達成のために、

「WLBの充実のための時間外削除・有休取得の推進と人材確保」、

「DX推進の効率化でベッドサイド時間の確保」、

「資格取得・教育の充実による看護力のアップ」

の3本柱で看護部を活性化させていきたいと考えております。

**◆WLBの充実のための時間外削除、有休取得の推進と人材確保**

WLBとは、「仕事と生活の調和」を意味し、仕事にやりがいを感じながら、育児や介護、自己啓発といった私生活も充実させるという考え方です。このWLBの充実は看護師自身の精神的ゆとりが生まれます。そのために時間外削減や有給取得の推進を目指しております。しかし、WLBの充実は簡単なものではありません。お互いへの「思いやり」や「おたがいさま精神」があってこそ成り立つものです。看護師同士がお互いを思いやりながらWLBの充実を目指し、一人でも多くの仲間が増えていくことを願っております。

**◆DX推進の効率化でベッドサイド時間の確保**

次は、患者さんのベッドサイド時間の確保です。この時間捻出のためには、積極的なDX・AIを活用した効率化の推進が必要です。看護師の多くの時間を費やしているといわれる看護記録は音声入力を活用し、時間を要しているカンファレンスやサマリ記録は自動作成機能の活用で効率化が実現します。また、スマホのチャット機能の活用は、職種間の情報共有と連携の強化が推進できると考え今後積極的に取り組んでいきたいと考えております。

**◆資格取得・教育の充実による看護力のアップ**

最後に、看護力の向上を目指した取り組みです。看護師一人ひとりの成長を目的に、クリニカルラダー教育の充実を図り、個人個人が成長できているという実感や達成感を持ちながら成長してもらいたいと思います。また、より高い専門知識を習得し、看護力を向上していくためには認定看護師・特定行為看護師、療養士など、専門性の高い資格者や研修修了者の継続した育成が必要と考えております。現在11領域13名の認定看護師と3名の特定行為看護師が在籍しております。こういった資格取得は本人のモチベーションアップと共に現場の看護力アップにつながり、更には病院収益にも大きく貢献できます。そして、何より患者さん、ご家族にとって安心・安全な看護が提供できる環境が整えられると思っております。これからも、地域の皆さんに選んでいただける病院となれるよう看護師育成を目指して参ります。

本年度も、患者さん、ご家族、地域の皆さんの温かいご理解、ご支援を賜りますようよろしくお願い申し上げます。そして、今年一年が皆さんにとりまして、幸せで実り豊かな年となりますことを心よりお祈りしております。

# 第69回 おしごと拝見 職場のわ
# ドック健診センター

ドック健診センター 萩 尾 真知子

**【ドック健診センターのご案内】**

人間ドックとは、生活習慣病などをはじめとした様々な疾患を早期に発見するための総合的な健康診断です。ご自身の健康維持のため、年一度の受検をお勧めします。

当院では、人間ドックに加えオプション検査※を実施しています。また、肺ドックおよび脳ドックは単独でも受検可能です。

主に契約企業の人間ドックを実施していますが、一般の方の受検もお受けしております。ご希望日によっては調整させていただく場合がありますので、予めご了承ください。

**◆ オプション検査受検者数ランキング**

当院のオプション検査受検者数ベスト3をご紹介します。

1位：マンモグラフィ
2位：胃がんリスク簡易検査法
3位：乳腺エコー

マンモグラフィおよび乳腺エコーは、近年受検者数が増加しており、乳がん予防に対する意識の高まりを感じています。

**※オプション検査一覧表**

| 検査名 | 目　　的 |
|---|---|
| マンモグラフィ | 乳がんの早期発見 |
| 乳腺エコー | |
| 3Dマンモグラフィ | マンモグラフィより、微細な石灰化や小さな腫瘍をより正確に検出できます。 |
| 胃がんリスク簡易検査法 | 胃がんになりやすいリスクの早期発見 |
| 肺ドック | 肺がん、呼吸器疾患の早期発見 |
| 脳ドック | 脳腫瘍および脳卒中などの早期発見 |
| 脂肪肝ドック | 肝硬変や肝臓がんになりやすい人の早期発見 |
| PET－CTドック | がんの早期発見 |

**【ホームページ開設予定】**

現在、当院ホームページ内に「ドック健診センターご案内ページ」を準備中です。2026年1月頃公開予定で、検査内容などの詳細をご覧いただけます。

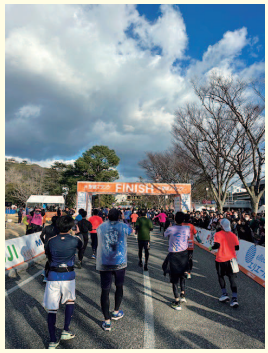
ご不明な点がございましたら、ドック健診センターまでお問い合わせください。

# 第63回 愛媛マラソンに挑む
## ～さらなる自己ベスト更新を目指して～

システム課 乗　松　　篤

2026年2月1日、第61回愛媛マラソンが開催されます。昨年の大会では、念願だったサブ3.5（3時間30分切り）を初めて達成しました。長い時間をかけて積み上げてきた努力が結果として実を結んだ瞬間でしたが、その達成感の裏で「もっと速く走りたい」という新たな目標が芽生えました。今回はその思いを胸に、さらなる自己ベスト更新を目指して挑みます。

春には初めてのウルトラマラソン（フルマラソンを超える距離）に挑戦しました。未知の距離は想像以上の厳しさであり、時間制限でリタイヤという結果ではありましたが、「限界を決めるのは自分自身」ということを改めて実感しました。夏は灼熱の中、汗だくになりながらも走り込みを続け、秋には月間200kmを超える距離を積み重ねました。休日の早朝や仕事終わりの夜、時には疲労を感じながらも、ひと足ずつ積み重ねてきたトレーニングは確実に自信へとつながっています。




マラソンは決して一人で走るものではありません。支えてくれる家族や仲間、そして応援してくれる皆さんの存在が大きな力になります。沿道からの声援が、最後の一歩を踏み出す勇気をくれます。今回も感謝の気持ちを胸に、42.195kmを全力で駆け抜けたいと思います。

目標はもちろん自己ベスト更新。これまでの努力を信じ、松山の街を走りながら、自分の限界に挑みます。応援よろしくお願いします！

# 令和8年度 愛媛県緩和ケア研修会を開催します

緩和ケア科長 福　原　哲　治

がん対策基本法に基づいて、がんなどの診療に携わるすべての医療従事者が基本的な緩和ケアについて正しく理解し、緩和ケアに関する知識や技術、態度を習得することを目的として、緩和ケア研修会を開催します。

| | |
|---|---|
| 開 催 日 | 令和8年4月11日㈯ |
| 開催場所 | 住友別子病院　総合棟2階　多目的ホール |
| 対 象 者 | がんなどの診療に携わる全ての医療従事者 |
| 募集定員 | 医師および歯科医師　10名程度<br>緩和ケアに従事するその他の医療従事者　20名程度 |
| 申込方法 | 住友別子病院ホームページ（http://www.sbh.gr.jp）より、愛媛県緩和ケア研修会参加申込フォームにてお申し込みください。先着順とし、定員となり次第、締め切らせていただきます。 |
| 申込締切 | 令和8年2月7日㈯ |

Orange Balloon Project

「緩和ケア普及啓発活動に参加しています」

# 第35回 あかつき会報告

薬剤部　松　本　大　輝

昨年11月19日に第35回あかつき会が開催されました。渡部臨床検査技師の司会のもとで第1部は薬剤師、第2部は管理栄養士、第3部は糖尿病センター長中村医師よりそれぞれお話がありました。今回のテーマは『肥満症について』で、まず第1部では私の方から肥満と肥満症の違いや、肥満症に対する新しい治療薬である「ゼップバウンド」についてお話ししました。なお肥満症の薬剤は誰でもすぐに使用するわけではありません。高血圧・高脂血症・糖尿病のいずれかの治療を受けており、BMIが27kg/㎡以上、さらに健康障害をお持ちの方が対象となります。その上で6か月以上の食事療法と運動療法を行っても目標に達しない場合に使用を検討する薬剤であるため、開始するまで一定の条件を満たす必要があります。

第2部では高橋栄養士より「糖質オフのお菓子」についてお話がありました。

糖質オフ＝カロリーゼロではなく、適切な量を決めて食べることが大切です。逆に糖質を減らし過ぎると脳のエネルギー不足につながり、疲れやすさや集中の低下を招くこともあります。無理のない範囲で適正な量を目標にしましょう。

最後の第3部では中村医師よりQ＆A形式で参加された方と交流を深めました。運動不足は高血圧だけでなく認知症のリスクにも影響することや、介護などでストレスなどをためてしまうと血糖値が上がりやすいため、うまくストレスを発散することが大切であるという話がありました。肥満を放置してしまうと様々な健康障害につながる可能性があります。

適度な運動やバランスの良い食事を続けていくことで健康な生活を目指していきましょう。

# 100万人のクラシックライブを開催しました

医療相談室　大　西　朝　奈

昨年11月21日に、今年度2回目となる『100万人のクラシックライブ』を開催しました。100名近くの来場者数となり、多くの方々に音楽を楽しんでいただきました。

最後の曲では、バイオリニストの岩本さんが、客席の間を歩きながら演奏され、より近くで身体全体で音色を感じていただき、皆さんが手をたたきながら楽しんでいる様子がみられました。

拍手が鳴りやまずに続けて演奏されたアンコール曲は、有名な“戦場のメリークリスマス”。少し早いクリスマスをお届けすることができたと思います。

次年度も開催を予定しております。日程が決まりましたら、院内掲示や病院ホームページでご案内いたしますので今しばらくお待ちください。

たくさんの方に楽しんでいただくことができるクラシックライブを準備したいと思います。ご来場お待ちしております。

# 今治フットサル大会2025 住友別子病院チーム奮闘記

脳神経外科　菅　原　千　明

2025年10月5日、今治市営中央体育館で開催されたフットサル大会に、病院内のスポーツ好きなメンバーで構成された多職種チーム（医師、看護師、薬剤師、リハビリ、医事課）「住友別子ばすたーず」が一般の部とMixの部に出場しました。

午前9時に集合して臨んだ初戦は、両部とも緊張から惜しくも敗退。続く2戦目も苦しい展開となりましたが、途中参戦の外科医、オペ室Ns、リハビリの療法士に加えて、Mixの部では女性陣の献身的な守備と果敢な攻撃の後押しを得て、最終戦で両部とも待望の初勝利をつかんで上位トーナメントへ進出！

一般の部では、サドンデスの1対1で華麗な突破を見せ、決勝トーナメント進出を決めました。白熱の決勝では、PK戦の末に2-1で惜敗したものの、一般の部6位（11チーム中）、Mixの部4位（8チーム中）と健闘した結果となりました。今回の雪辱を胸に、現在は住友金属鉱山体育館でフットサルだけでなく、バスケット、バドミントンなど、楽しく継続しています。

## 病院広報誌リニューアル
# 新名称は「BESSHI SMILE」に決定！

病院ニュース編集委員会

住友別子病院は広報誌の新しい名前を病院職員の皆さんに募集し、応募いただいた中から投票の結果「BESSHI SMILE」に決定しました。

「BESSHI SMILE」は患者さん、地域の皆さん、そして職員同士の笑顔がつながり広がっていく病院を目指したいという想いが込められています。

覚えやすく、明るい響きで、子どもさんから高齢者まで親しみやすいことも評価されました。新名称「BESSHI SMILE」は本号より正式に広報誌タイトルとして使用いたします。

最後に広報誌は病院の魅力や取り組みを伝え、病院と地域をつなぐ大切なものです。この名称とともに、より良い情報発信に取り組んでまいります。

企画・発行 / 医療法人住友別子病院
〒792-8543 愛媛県新居浜市王子町3番1号
TEL（0897）37-7111　URL https://sbh.gr.jp/

編集 / 病院ニュース編集委員会
住友別子病院ニュースに関するご意見・ご感想は
TEL（0897）37-7133　FAX（0897）37-7134 までお寄せください。